

生理学

責任者・コーディネーター	生理学講座(病態生理学分野) 黒瀬 雅之 教授				
担当講座(分野)	生理学講座(病態生理学分野)				
対象学年	1	区分・時間数	後期	講義/演習 19.5時間	実習 0.0時間
期間	後期				

学修方針（講義概要等）

生理学(Physiology)は、生命活動の動的機構の解析を目指し、その機構に属する各種細胞や器官の機能解明と、それらの機能が統合された個体全体の生命現象の解明を目指す学問である。生理学の守備分野は、広範な領域を含むが、植物機能と動物機能に大きく分かれ、“生体の構造と機能”のうちの“機能”の理解を主として担当している。植物機能とは、血液・循環・呼吸・消化・排泄・内分泌などが含まれる生命維持に必須の機能である。機能調節を担う自律神経及びホルモンの植物機能に属するため、植物機能全体の概要とそれぞれの調節様式を説明する。一方、動物機能は、神経系やそれに支配される骨格筋に代表される機能であり、筋・神経細胞の共通の特徴である興奮性を理解し、神経細胞を興奮させる外部刺激に対しての応答性から各種感覚から理解し、情報伝達部位であるシナプスの働きと筋収縮機構について解説し理解を促す。

教育成果（アウトカム）

講義：生体の構造と機能を“機能”の視点から学修することにより、個体全体の生命現象に“動き”をつけて説明出来るようになる。特に、歯科医師となった際に、病状の説明を医学的な背景を踏まえて簡潔に説明しようとする態度が身につく。

ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）

1. プロフェッショナリズム
2. コミュニケーション能力○
3. チーム医療の実践能力
4. 包括的歯科医療の実践能力◎
5. 地域保健・医療の実践能力
6. 高水準の診療能力
7. 国際貢献への資質
8. 研究マインドの保持◎
9. 生涯学修の実践

（関連するディプロマポリシー：2、4、8）

事前事後学修の具体的内容及び時間

事前学修については、各回到達目標の内容に関し教科書または参考書を用いて調べるものとする。各回到達目標内に、事前学修の必要最低限の時間の目安を記載した。本内容は全授業に対して該当するものとする。これ以外に事前学修を必要とする場合は、Web-Class上に課題などを示す。教科書や参考書を読むだけでなく、自分用のノートに必要事項をまとめるなどの工夫をすると良い。講義毎には、「講義ノート」形式の資料を作成し配付するので、講義中に必要事項を適宜記入し復習に役立てて欲しい。学期修了後には学年が上がっても使用することの出来る自作「講義ノート」を完成させると良い。

（事前学修：最低30分を要する 事後学修：最低30分を要する）

講義/演習日程表

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	11/8 (水)	3	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態 生理学分野)	生理学総論 神経総論 生理学という学問を学ぶ 意義を理解する。情報処理 機構の主役である神経 系の役割を学び、神経系 の構成を理解する。	1. 生理学を学ぶ意義を理解する。 2. ホメオスタシスを概説できる。 3. 器官系を列举出来る 4. 神経系を概説できる。 5. 中枢神経系と末梢神経系の違い を説明できる。 6. 末梢神経の構成を列举できる。 [C-3-4)-(5)] 事前学修：基礎歯科生理学 p2-5
講義	11/15 (水)	3	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態 生理学分野)	膜電位の構成と活動電位 神経系の主役となる電気 信号(活動電位)の成り 立ちを学び、情報処理機 構である神経系の役割を 理解する。	1. 静止膜電位を説明できる。 2. 漸増電位を説明できる。 3. 細胞内外のイオン構成を図示し て説明できる。 4. 活動電位を概説できる。 5. 電気化学的勾配を説明できる。 [C-3-4)-(5)-(7)(8)] 事前学修：基礎歯科生理学 p16-27
講義	11/22 (水)	3	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態 生理学分野)	神経細胞の構造と機能 電気信号である活動電位 を伝播する神経細胞の構 造を学び、神経細胞の機 能を理解する。	1. 神経細胞の構造を図示できる。 2. 活動電位の伝播を概説できる。 3. 神経線維の種類を説明できる。 4. 軸索輸送を説明できる。 5. 興奮伝導の原則を列举できる。 [C-3-4)-(5)-(7)(8)] 事前学修：基礎歯科生理学 p28-35
講義	11/24 (水)	2	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態 生理学分野)	シナプス伝達1 シナプス伝達の仕組みを 学び、情報処理機構であ る神経系の特徴を理解す る。	1. シナプス構造を図示できる。 2. 神経伝達物質を列举できる。 3. 伝達物質の作用を説明できる。 4. 受容体の種類を列举できる。 [C-3-4)-(5)-(7)(8)(9)] 事前学修：基礎歯科生理学 p35-42
講義	11/29 (水)	3	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態 生理学分野)	シナプス伝達2 シナプス伝達の仕組みを 学び、シナプス伝達の修 飾機構を理解する	1. グリシンの作用を説明できる。 2. アセチルコリンの作用を説明で きる。 3. シナプス伝達の薬理的修飾を 説明できる。 4. 受容体・再取り込み・分解酵素 をターゲットとした薬剤を説明でき る。 [C-3-4)-(5)-(7)(8)(9)] 事前学修：基礎歯科生理学 p35-42
演習	12/1 (金)	2	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態 生理学分野)	生理学演習 到達度評価試験を行い、 これからの基軸となる生 体の電気現象を再確認す る。	これまでの講義内容についての理解 度を評価する。(11月29日3限目ま での講義分) [C-3-4)-(5)-(4)(7)(8)(9)]

講義	12/1 (金)	3	加藤哲也助教 (生理学講座 病態 生理学分野)	脳と脊髄概論 脊髄と脊髄神経・脳の概要を理解する	1. 脊髄と脳の役割を説明できる。 2. 中枢神経系の発生から脳の連続性と脳室の関係性を説明できる。 3. 各中枢の解剖学的構造とその異同を説明できる。 4. デルマトームについて概説できる。 5. 脊髄の構造、前角と後角にある神経細胞の違いについて説明できる 6. 脳の区分を説明できる。 [C-3-4)-(5)-④]
講義	12/6 (水)	2	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態 生理学分野)	自律神経系の構成 内部環境をモニターする自律神経系の入出力を学び、自律神経系の構成を理解する。	1. 自律神経系の入出力を説明できる。 2. 随意と不随意の違いを説明できる。 3. 二重支配を概説できる。 4. 交感神経と副交感神経の解剖学的・生理学的相違点を列挙できる。 [C-3-4)-(5)-①②③] 事前学修：基礎歯科生理学 p279-283
講義	12/6 (水)	3	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態 生理学分野)	交感神経と副交感神経 交感神経と副交感神経のニューロンを学び、二重支配を理解する。	1. 交感神経の構成を説明できる。 2. 副交感神経の構成を説明できる。 3. 交感神経の連絡/作用を説明できる。 4. 副交感神経の連絡/作用を説明できる。 [C-3-4)-(5)-①②③] 事前学修：基礎歯科生理学 p279-283
講義	12/8 (金)	1	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態 生理学分野)	個体レベルで見た自律神経機能 自律神経系が効果器に及ぼす作用を学び、全身的なトーンを理解する。	1. 交感神経と副交感神経の神経伝達物質を列挙できる。 2. 交感神経と副交感神経の受容体の種類を列挙できる。 3. 受容体の種類による効果器での異なる作用を説明できる。 4. 自律神経系の中枢を説明できる。 [C-3-4)-(5)-①②③] 事前学修：基礎歯科生理学 p284-290
講義	12/13 (水)	3	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態 生理学分野)	自律神経のシナプスと修飾機構 シナプス伝達の修飾機構を学び、自律神経系のシナプスの理解を深める。	1. アトロピンの作用を概説できる。 2. アドレナリンの作用を概説できる。 3. 有機リン中毒を概説できる。 [C-3-4)-(5)-①②③] 事前学修：基礎歯科生理学 p290-293

講義	12/15 (金)	2	加藤哲也助教 (生理学講座 病態 生理学分野)	筋力の調節機構 筋収縮のメカニズムを学 び、筋力の調節機構を理 解する。	1. 筋肉の種類を列挙できる。 2. 骨格筋の微細構造を説明でき る。 3. 運動単位を説明できる。 4. 等張性・等尺性収縮を説明でき る。 5. 単収縮と強縮を図示して説明で きる。 [C-3-4)-(3)-①②③] 事前学修：基礎歯科生理学 p42-49
講義	12/18 (月)	2	加藤哲也助教 (生理学講座 病態 生理学分野)	神経筋接合部 神経筋接合部での情報伝 達を学び、筋力の調節機 構の背景にある神経基盤 を理解する。	1. 筋収縮の3つのステップを説明で きる。 2. 神経筋接合部での伝達過程を図 示して説明できる。 3. アクチンとミオシンの相互作用 を説明できる。 4. 筋弛緩剤の作用を説明できる。 5. 重症筋無力症の病態を説明でき る。 [C-3-4)-(3)-①②③] 事前学修：基礎歯科生理学 p42-49

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	基礎歯科生理学 第7版	岩田幸一・井上富雄・舩橋誠・加藤隆史 編集	医歯薬出版	2020
参	標準生理学 第9版	本間研一 監修、大森治紀・大橋俊夫 総編集、河合康明他 編集	医学書院	2019
参	生理学テキスト 第9版	大地陸男 著	文光堂	2022
参	コスタンゾ明解生理学 第6版	Linda Constanzo 原著 林 俊宏・高橋 倫子 監修	エルゼビア ジャパン	2019

成績評価方法・基準・配点割合等

1回の到達度試験と定期試験となる後期試験の結果から成績評価を実施する。試験は、主として記述問題を出題するが、5択の選択問題を含むことがある。到達度試験の結果は、各自に対してWeb-Classを介して成績表を添付しフィードバックを行う。後期試験の結果は、全体の結果をWeb-Classを介してフィードバックを行う。
総合評価：到達度試験（40%）後期試験（60%）で65%以上を合格とする。

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用等）

各講義の事前事後学修の具体的な内容や試験に関する連絡は、①講義時に担当教員からの伝達②Web-Classを通じての連絡③生理学の講義用LINEオープンチャットを通じての連絡のいずれかで行う。講義資料はWeb-Classで配信を行う。講義で活用した動画などは、可能な限りYoutubeにアップロードを行う、またはURLを開示する。到達度試験の結果は、フィードバックしやすいよう個人票を作成しWeb-Classを介して開示する。試験問題は原則回収するが、試験後に教員に開示を求めることが出来る。写真撮影は認めない。試験に関しては、原則追試験は行わないが、新型コロナウイルス感染症など大学が公式に認めた欠席の場合は追試験を行う。診断書があれば必ず追試験を受験出来るわけではない。到達度試験に関しては、再試験を実施する場合がある。

授業に使用する機械・器具と使用目的…特記すべき器械・器具等はありません。

使用機器・器具等の名称・規格	台数	使用区分	使用目的